

皆様、こんにちは。

NPO 法人ジャパン・トラベルボランティア・ネットワーク代表の おそどまさこと申します。

本日は

1. AIRCAREプロジェクトについてご説明いたしたいと思います。

10 分間ほど、お時間をいただきます。

Aircare とは、空中でケアする。

つまり、旅行介助サポーターという立場の人と、助けでもらいながら旅や広域外出したいという人をインターネット上でマッチングさせるサイトを立ち上げることにしましたので、ご紹介いたします。

夏前に試験運用し、年度内には本格運用させる方向ですすすめております。

オンデマンドですね。

旅行介助サポーターは 2 種類。アマチュアとプロフェッショナル。

アマはトラベルボランティア 昼間車いすを押したり手引き介助します。

プロは旅行介助ガイド。ホテルの部屋に入った後、生活介助もこなす。排泄、入浴、寝返り等。介護や看護のプロで旅が大好きな方々です。

福祉のヘルパーとどう違うか。あちらは見知った人を決まった室内で介助する人々です。

こちらは知らない、もしくは顔は知っている程度の人の旅に同行して、移動しながら介助します。

Aircare では、日本地図上にその人々を載せ、見える化をはかります。

トラベルボランティアは緑色

旅行介助ガイドは赤色とか、色分けをします。

はじめはニックネームですすめ、

地図上のマークをクリックすると、その人の住所地の市名、働ける範囲(市内なのか、県境を越える近隣なのか、日本中なのか、はたまた地球ひとり旅に対応できるのか。)、働けるレベル 排泄等のサポート等身体介助ができるのか)

支払いが決済が終われば、本名同士の本格的なマッチングとなります。

人と人とのマッチングですので、

①ワンクリックでうまくいくケースと、

②ヘルプデスクや、アドバイススタッフがカウンセリング参画して、やりとりしながら進めていくケースと 2 種類あります。

ワンクリックでうまくいくのは、軽い障がいの人をサポートで、たぶん地域の街での日帰り同行でしょう。

私が3年間、観光プロデューサーをつとめたことがある鳥取を例に挙げてみましょう。

鳥取駅で meet して、麒麟獅子バスで鳥取砂丘へいき、広大な砂丘を楽しみ、砂の博物館を見学し、市内へ。鳥取城は秀吉に兵糧攻めにあって負けた城ですが、どのように知恵者の秀吉が陣をはり、攻めていったか、等に思いをはせながら、1日の観光を終える。

こんな旅は、日帰り同行サポートですので、ワンクリックで人を見つけることができます。

地域のトラベルボランティアが対応できます。トラベルボランティアは旅行介助サポーターの AMA、1日 8000 円程度の報酬を見込んでいます。

一方、比較的に重度な、排泄の悩みや、衣服着脱などができない人は、旅行介助ガイドという福祉や看護のスキルがあって、旅行介助ガイド検定に受かった人 PRO が担当します。全国 20 都府県に分布して、今、既に 65 名の方がおられます。1日 8 時間で 12000

円ほどの報酬を得られます。

この方々は旅経験が豊富で、車いすを押したり、手引きするだけでなく、重度の障がいのある方の悩みを解決する実力を持ち合わせています。外国語に強い方もおられます。

私は2年前から、このレガシー共創協議会に参加して、プロジェクト「旅行弱者支援プラットフォーム」の骨子として全国一律のインフラ作り＝UD 旅行情報のデータベースづくりの提案をして参りましたが、このほど、実現する順番を変えることにしました。

まず、旅行介助サポーターの養成と、インターネット上でマッチングさせる仕組みづくりからはじめることにしました。

aircare は、エコノミーシェアリング ビジネスだと思えます。

スモールスタート

できるところからスタートさせ（スモールスタート）て、大きく広げていきたいと思います。

人材（旅行介助サポーター）育成は最大のカギです。地域にとっても、やはり人材育成が最大の課題だと思います。

ここで自治体の皆さまにご提案したいのです……。

介護保険の費用を少なくしたり、医療費を少なくするには、地域に元気な人々をつくるのが肝心です。

地域には、元気な高齢者や、仕事をやめてしまった看護師や介護福祉士がたくさんおられます。

社会資源ですね。

その人々を旅行介助サポーターに養成して、助ける人材へ、少しお金を得られる人材へとシフトする必要があるかと思います。

小さな雇用創出ですね。

社会資源の活用です。

この養成された人材は、オリンピック・パラリンピックでも大きな活躍の場。必要性もあるでしょうし、オリパラ終了後、地域の活力の核、即戦力ともなりうると思います。

地震の際に、ひとり暮らしの重度の障がい者や高齢者を助けたり、誘導する人材にもなり得ると思われます。

平時は旅支援 → これはインバウンドの観光振興。
有事にはひとり暮らしの老人や障がい者の救い出し。

私たちは、この旅行介助サポーター育成に、自治体の参画を提案させていただきたいと。心ある自治体とぜひ連携をしていきたいと思っております。

旅人は県境で引き返しませんので、連携は大切であろうと思います。

私たちは 11 時間の座学で初級講座、日帰りもしくは 1 泊 2 日の旅の現場講座、検定試験を行い、地域組織化までサポートすることを日本中へ出前いたします。連携をして参りませんか。

スポンサーということで、旅行会社、食品会社(介護食を扱う等)、バリアフリー高齢者住宅を創り出す建築関係などなど

このプロジェクト aircare プロジェクトにかかわることで、おもしろい展開があるかもしれません。

また、私たちは aircare 実現に向けて 1000 人委員会をつくりました。

ここにお集まりの皆様に、1000 人委員会にご参加、ご寄付をいただければ幸いです。

最後になりましたが、aircare の基本理念はいつでも、だれでも、地球のどこへでも、死ぬ直前まで

希望すれば、旅できる社会をめざすことです。

旅はリハビリ、旅は生きるエネルギー源、旅はチャレンジ、
旅は幸せの源です。

幸せの源である旅をすべての人に提供しうる仕組み
aircare プロジェクトに皆様のお力添えをいただけました
ら幸いです。

ご静聴もありがとうございました。 (了)